

# 令和 5 年度 基幹演習科目案内

國學院大學 神道文化学部

## ● 基幹演習について

### 1) 3・4 年次の本格的な学びの場—基幹演習科目の履修・単位修得—

神道文化学部生は、卒業までに「基幹演習科目」2 科目 8 単位を修得する必要があります。そのうち、3 年次に演習 I を、4 年次に演習 II をそれぞれ 1 科目 4 単位ずつ履修しなければなりません。また、原則として、同一の教員の演習に所属して 3・4 年次に連続して履修する必要があります。以上をふまえて、これから 3 年次進級までの時期に、所定の手続きによって履修を希望する科目の選択を必ず行ってください。

### 2) 研究成果を論文にする—中間リポートと演習論文

3 年次の演習 I では、主として研究法や論文作成の基礎を学び、6,000 字以上の中間リポートの作成に取り組みます。4 年次の演習 II では、12,000 字以上の演習論文を作成し、4 年間の大学生活の集大成となる研究成果をまとめあげます。

演習論文の執筆にあたっては、演習のときはもちろん教員のオフィスアワーなども活用して積極的に担当教員の指導を受けつつ、地道に調査・研究と論文作成に取り組むことが求められます。

## ● 基幹演習の履修について

### 1) 履修までの日程

基幹演習科目では、各自の主体的な関心にもとづき、担当教員の指導のもとで、互いに成果を発表し討議して研究を深めていきます。そのため、自分の関心に合う演習科目を見つけて選択することがまず重要になります。しかしながら、限られた時間内で全員が発表し、討議に参加できるように、基幹演習のクラスには人数制限を設けています。そこで、より関心度、志向性の高い学生が希望する科目を履修できるように、段階的に募集を行います。

以下の日程・説明・注意事項をよく確認して、締め切りまでに課題や書類を提出してください。

| 月 日                 | 内 容  |
|---------------------|--|
| 12月下旬               | <ul style="list-style-type: none"><li>「令和5年度基幹演習科目案内」の配布開始</li><li>履修希望科目の1次募集の開始</li></ul>  |
| ～1月13日（金）<br>23時59分 | <ul style="list-style-type: none"><li>1次募集の締め切り<br/>(大学ホームページの演習ページに掲載している指定書式で、作成したリポートを所定フォームより提出)</li></ul> <p>大学ホームページ&gt;在学生・保護者の方へ&gt;授業・履修&gt;<br/>演習&gt;神道文化学部<br/><a href="https://www.kokugakuin.ac.jp/student/tuition/p2-2-2">https://www.kokugakuin.ac.jp/student/tuition/p2-2-2</a></p> |
| 2月22日（水）<br>以降      | <ul style="list-style-type: none"><li>1次募集合格者発表（各自にメールで連絡予定）</li><li>1次募集の選考に漏れた者に対しての第2次募集の開始<br/>(※別途対象者にのみ連絡します)。</li></ul>   |
| 4月初旬                | <ul style="list-style-type: none"><li>K-SMAPYⅡ（WEB学生支援システム）上に1次・2次の募集・選考結果により演習科目が自動登録される</li></ul>  |

### 2) 1次募集（～1/13）

基幹演習担当の各教員が示すテーマに対して、志向性を持った学生を優先的に受け入れるため、基幹演習科目担当教員が示した課題リポートを、大学ホームページの演習ページに掲載している所定様式に記入していただき、所定フォームに提出してもらいます。ワード形式で、ファイル名は「科目番号・教員名・ご本人氏名」としてください。締め切りは1月13日（金）23時59分までです。それをもとに担当教員が選考します。

合否の発表は、2月22日（水）以降にメールでご連絡予定です。

### 3) 2次募集（～3/1）

1次募集で合格しなかった学生に対して、2次募集を行います。対象者にのみ、別途お知らせいたします。

#### \* 注意事項（その1）

例年、基幹演習科目の履修希望を所定の手続き、締め切りの日時までに提出せず、4月になってから教務課の窓口に履修登録を願い出る学生がいます。基幹演習科目は必修科目のため、いずれかの科目を履修登録することにはなりますが、この時点で願い出ても1次、2次募集ともに終了しており、自分の興味関心に合う教員の演習科目を履修できる可能性は、極めて低くなります。次ページ以降の科目紹介を熟読し、1次募集、2次募集とも締め切りを守って提出し、なるべく自身の希望に沿った科目選択を行なうようにしてください。

#### \* 注意事項（その2）

基幹演習科目については、基本的には2年間同一の教員で履修することになりますが、演習Iの単位が当該年度で取得できない場合、再履修用クラスの演習I（もしくはII）に自動的に移動することになります。学生諸君は、くれぐれも単位を落とすことのなきよう頑張って演習に出席し、学修してください。

#### \* 注意事項（その3）

フレックスAコースの学生で、フレックス特別給付奨学金を次年度（令和5年度）も受給しようとする学生、およびフレックスAコースで次年度も神社実習生の学生については、昼時間帯開講の基幹演習科目は履修することができませんので、1次募集に応募の際は、十分注意して科目番号を記載するようしてください。「共通」は選択可能です。

#### \* 注意事項（その4）

昼夜開講の演習（ 笹生教授・平藤教授）については、フレックスAコースの学生は「夜」、フレックスBコースの学生は「昼」を選択して下さい。なお、昼開講・夜開講でも、5限に開講される可能性があります。

#### \* 注意事項（その5）

加瀬先生の神道史学演習Iは、フレックスAコースの学生を主たる対象者としますが、フレックスBコースの学生も選択することができます。

## 令和5年度開講の基幹演習科目一覧

| 科目番号 | 授業科目     | テーマ                   | 教員名         | 昼・夜 |
|------|----------|-----------------------|-------------|-----|
| 1    | 神道学演習 I  | 大祓詞を通して神道を学ぶ          | 西岡 和彦       | 共通  |
| 2    | 神道学演習 I  | 近現代の東アジアと神道・宗教        | 菅 浩二        | 共通  |
| 3    | 神道学演習 I  | 現代社会と神社・宗教を考える        | 藤本 順生       | 共通  |
| 4    | 神道学演習 I  | 近世・近代の神道と国学           | 松本 久史       | 共通  |
| 5    | 神道学演習 I  | 神道古典に見る思想・信仰          | 小濱 歩        | 共通  |
| 6    | 神道史学演習 I | 古代祭祀の実態をさぐり、災害・環境を考える | 笛生 衛        | 夜   |
| 7    | 神道史学演習 I | 古代祭祀の実態をさぐり、災害・環境を考える | 笛生 衛        | 昼   |
| 8    | 神道史学演習 I | 神道・神社を歴史的に考える         | 加瀬 直弥       | 夜   |
| 9    | 神道史学演習 I | 祭祀・神社・神話・信仰などを考える     | 小林 宣彦       | 共通  |
| 10   | 神道史学演習 I | 神社の四季の祭りを学ぶ           | 鈴木 聰子       | 共通  |
| 11   | 宗教学演習 I  | 宗教を通して社会・文化を考える       | 石井 研士       | 共通  |
| 12   | 宗教学演習 I  | 現代社会における宗教文化の諸相       | 黒崎 浩行       | 共通  |
| 13   | 宗教学演習 I  | 日常と非日常を媒介するものを考える     | 遠藤 潤        | 共通  |
| 14   | 宗教学演習 I  | 神社信仰に関する宗教学的考察        | 齊藤 智朗       | 共通  |
| 15   | 宗教学演習 I  | 世界と日本の神話と神々           | 平藤 喜久子      | 夜   |
| 16   | 宗教学演習 I  | 世界と日本の神話と神々           | 平藤 喜久子      | 昼   |
| 17   | 宗教学演習 I  | 宗教とグローバル化             | シッケタンツ・エリック | 共通  |
| 18   | 宗教学演習 I  | 近現代社会のなかの神靈           | 大道 晴香       | 共通  |
| 19   | 宗教学演習 I  | 民俗神道の研究方法を考える         | 柏木 享介       | 共通  |

\* 「共通」はフレックス A・B どちらの学生も選択できます。

\* 笛生教授・平藤教授については、フレックス A コースの学生は「夜」、フレックス B コースの学生は「昼」を選択して下さい。科目番号を間違えないようにして下さい。

\* 神道史学演習 I (武田秀章教授) については、令和5年度は休講とします。

# 神道学演習Ⅰ（共通） 「大祓詞を通して神道を学ぶ」

## 概要

「大祓詞」は最もポピュラーな祝詞です。皆さんのなかにはすでに暗記している方も多いことでしょう。しかし、内容を正しく理解しているでしょうか。それに不安を感じ、それを解消したいと思ったら、本ゼミに参加してください。「大祓詞」を通じて、神道理解がより深まるかもしれません。

本ゼミでは、「大祓詞」を通じて、みなさんの神道研究の発展をねらうのが目的です。できれば「神道神学Ⅰ・Ⅱ」「神道思想史学Ⅰ・Ⅱ」の受講や『古事記』『日本書紀』の再読をお勧めします。

テキスト—岡田莊司・阪本は丸監修、大島敏史・中村幸弘編著『現代人のための祝詞—大祓詞の読み方—』（右文書院、2000）

配布プリント（K-SMAPY「授業資料」にアップします）

参考書—青木紀元『祝詞全評釈 延喜式祝詞・中臣壽詞』（右文書院、2000）ほか

## 目標

3年生は、「大祓詞」をよく理解し、意訳できるまで読み込める学力を身につけます。それを参考にして、研究課題を見つけるのが目標です。4年生は、「大祓詞」を改めて学び直し、3年生の時の研究課題をより専門的に探求できる学力を身につけ、かつ文章に纏められるのを目標とします。

授業内容—昨年度はコロナ禍のため、前期はオンライン授業と対面授業を併用し、後期は対面授業を行った。

前期：テキスト『現代人のための祝詞—大祓詞の読み方—』から「大祓詞」を音読し、正しく読めるようにする。つぎに拙著『建国の使命—「大祓詞」の神学—』等で詳しく解説（講義）し、「大祓詞」の内容理解につとめる。理解度をはかるため、時折レポートを作成し、添削を受けることで、理解度の確認と文章力の育成につとめる。

後期：夏期休暇中に研究・調査した成果を、レジメにして口頭発表し、受講生や教員からの質問や意見に応える。後期はおもに各自の研究の進捗状況を発表（毎回2～3名）。レポートは、11月頃から順に仮提出（完成度8割程度）し、添削を受ける。それをゼミで改めて解説指導し、それを受け加筆訂正したレポートを提出する。

ゼミ合宿：本ゼミでは、夏期休暇中に大学院生と共同でゼミ合宿を行う。コロナ禍前は、出雲大社・大神神社・伊勢神宮・平泉寺白山神社・下御靈神社等を参拝、周囲の施設等を見学し、毎夕研究発表を行った。2泊3日のゼミ合宿は、研究の進展をはかり、視野を広め、そして親睦を深めるのが目的。あくまで自主参加。

## 1次募集提出課題

テキスト『現代人のための祝詞—大祓詞の読み方—』を参考に、「大祓詞」（祝詞本文の内容）を800字程度にまとめなさい。つぎに自身の研究課題とその構想を200字程度にまとめなさい。

## 担当教員紹介

西岡和彦 教授

## 令和4年度の担当科目

神道学演習Ⅰ・Ⅱ、神道神学Ⅰ・Ⅱ

## 専攻領域

神道思想史 神道神学

## 主な著書・論文

- ・『『直毘』を読む』（共著、右文書院、2001）
- ・『近世出雲大社の基礎的研究』（単著、大明堂（現、原書房）、2002）
- ・『神道の格言』（単著、大神神社社務所、2017）
- ・『建国の使命—「大祓詞」の神学—』（単著、伊勢神宮崇敬会、2017）
- ・『先代旧事本紀論』（共著、花鳥社、2019）
- ・『江戸期『論語』訓蒙書の基礎的研究』（共著、明徳出版社、2021）
- ・『日本書紀と出雲觀』（共著、島根県教育委員会、2021）

「大祓詞」（「中臣祓」）や祝詞に  
関心のある方。思想や神学、またゼ  
ミ合宿や大学院に関心のある方。一  
緒に勉強しましょう。



# 神道学演習Ⅰ（共通） 「近現代の東アジアと神道・宗教」

## 概要

本演習では、神道の学びに軸足を置きつつ、日本を含む東アジア地域の近現代において諸宗教や精神文化が果たした、また果たしている役割を考える。沖縄の位置づけにも注目する。

前期には、この主題が、現在の学術においてどのように扱われ論じられているのか、課題は何か、を学ぶ。世界の中の「東アジア」という広がりの中で、「日本」を捉える視点が重要である。

後期には各受講生が自身の関心に沿って具体的な主題を選択、自らの問題関心と現在の研究動向を関わらせながら、論文作成のための発表と全体討議を行う。主題に日本以外の事象を選んでも良いが、日本の事例との比較に基づく考察が望ましい。

## 1次募集提出課題

下記いずれか一つの主題について書きなさい(1000字以上)。選んだ主題の番号と題目を明記すること。

- (1) 「近現代の東アジアと神道・宗教」という論題で、自分が研究で明らかにしたいこと、その方法。
- (2) 近現代の神道や宗教について、関心あること、なぜ関心があるか、疑問に思っていることは何か。

## 担当教員紹介

菅 浩二 教授

## 令和3年度の担当科目

神道と国際交流Ⅰ、神道文化基礎演習、  
神道文化演習、神道と環境Ⅱ、神道学演習Ⅰ、  
英語Ⅲ

自らの関心を発表し、他者との討議を経て、  
より一般的な知見に至る、これこそが演習で  
得られる重要な経験です。この演習を通して、  
神道や宗教を、自分の問題意識をもって考え  
学ぶ能力を身につけてください。

## 専攻領域

宗教とナショナリズム論、近代神道史、歴史社会学



## 主な著書・論文

- ・『日本統治下の海外神社』(弘文堂、平成16年)
- ・『戦争と宗教』(共著 天理大学出版会、平成18年)
- ・「「国家による戦没者慰靈」という問題設定」  
(『招魂と慰靈の系譜』錦正社、平成25年)
- ・「海外神社論」(『講座 日本歴史20 地域論』岩波書店、平成26年)
- ・「明治神宮が〈神社〉であることの意義」(『明治神宮以前以後』鹿島出版会、平成27年)
- ・「冥王星と宇宙葬」(『共存学3』弘文堂、平成27年)
- ・"Shinto" *Interreligious Philosophical Dialogues*, Vol.2. Routledge, 2018.
- ・「ナショナリズムの世俗性をめぐる断想」(『共存学4』弘文堂、平成29年)
- ・「靖国神社と「福祉国家」」(『国家神道と国体論』弘文堂、令和元年)
- ・「巨大ロボットと宗教」(『巨大ロボットの社会学』法律文化社、令和元年)

# 神道学演習Ⅰ（共通） 「現代社会と神社・宗教を考える」

## 概要

いまだ続くコロナ禍のなか、日本国内では過疎化や少子高齢化、グローバル化・デジタル化といった問題はもとより、SDGsなど世界的な規模で解決すべき様々な問題が横たわっている。また、非接触型の電子決済やリモート化などが進み、人々を取り巻く社会環境、心情にも種々の変化がみられるようになった。地方では少子高齢化・過疎化が進み、維持管理や後継者の確保すら困難な状況にある神社も増え、都市や田舎を問わず、社寺の祭礼や伝統芸能の継承の困難さがあると聞く。一方、御朱印ブームやアニメなどのサブカルチャー的な側面での神社の参詣行動はいまだ衰えておらず、あらためて人々を祭礼へと目を向けてもらうためにも神道教化の面でも技術革新と伝統文化、サブカルチャーとの共生・共存が問いかれている。このような社会的背景のもとで、神道・宗教が果たし得る役割・社会活動を考えることは、今後も神社・神道が日本社会に必要とされてゆくためにも重要な営みであろう。

そこで本演習では、神社を取り巻く様々な社会事象・伝統文化を視野に入れ、各受講生の発表を通じて、問題意識や課題を共有しながら、現代社会における神社・宗教を幅広く考えてみたい。

## 1次募集提出課題

今後、我が国は様々な面でさらなる社会環境の変化が予想される。そこで、神社が今後、地域コミュニティのなかで、どのような活動をなすべきか、神職や日本の伝統文化を学んだ神道人が地域に貢献するためにはどのようなことをなすべきか、の2点について、その実践の方法・活動内容を自分なりに文章にまとめなさい。（1,000字以上）

## 担当教員紹介

藤本頼生 教授

## 令和4年度の担当科目

神道学演習Ⅰ・Ⅱ、神道教化概論Ⅰ・Ⅱ  
神道史学ⅡA・ⅡB、神社管理研究Ⅰ・Ⅱ

演習では、主に現代の神社や神道文化・宗教文化にかかる問題について、学生それぞれが自身の関心に基づいた発表を重ねてゆくなかで、演習レポートの作成を教員とともに考えてゆきます。

現代社会の諸事象と神社・神道と社会の関わりに広く興味のある方、神社や神職の教化活動や社会活動を考えてみたいと思う方、ぜひ一緒に学んでみませんか。

## 専攻領域

現代社会と宗教、都市社会学、近代神道史  
神道教化、神道と福祉、政教問題、宗教行政・神社管理

## 主な著書

- ・『東京大神宮ものがたり一大神宮の140年』（単著・錦正社、令和3年）
- ・『明治維新と天皇・神社』（単著・錦正社、令和2年）
- ・『鳥居大図鑑』（編著・グラフック社、平成31年）
- ・『よくわかる皇室制度』（単著・神社新報社、平成29年）
- ・『神社と神様がよくわかる本』（単著・秀和システム、平成26年）
- ・『地域社会をつくる宗教』（編著・明石書店、平成24年）
- ・『神道と社会事業の近代史』（単著・弘文堂、平成21年）



# 神道学演習Ⅰ（共通） 「近世・近代の神道と国学」

## 概要

対象とする時代は、近世（江戸）時代～昭和 20 年にかけてであり、神道を取り巻く様々な環境が変化し、「神道」についての自覚が高まっていった時代である。その中で勃興した国学に基づいて、様々な言説・実践が展開された。現在、我々の知っている神社の由緒や祭神、祭事、神職の系譜については国学の研究成果に基づくものが少なくない。このように、神道を学ぶために重要な国学の成果について、受講生各人が自らの関心に従い、具体的な事例、著述、人物などを取り上げ、理解を深めて行く。

「神道」における「カミ」の対象は、神社に祀られる神だけではなく、古典に記される神、民間で信仰されている神、実在した人物が祀られた神、祀られず忌避された祟り神や妖怪的な神靈など含み、幅広い。そのような「神道」を国学者がどう理解し、現実社会のなかで実践していったかに留意しながら、各人が自発的な研究を進めることにより、近世・近代の神道の実像を把握していく。

特に、神道史学Ⅱで学んだ近世・近代の神道史のなかでの神観念の発展や実践、国学概論Ⅰ・Ⅱで学んだ復古神道における神に関する学説や活動、古典講読Ⅰ・Ⅱで学んだ記紀の国学者による研究など、興味・関心を持った事柄につき、より一層の発展的な追求を志す受講生を歓迎したい。

## 1次募集提出課題

本演習の 2 年間で学びたいことについて、以下の、①神社と国学者（神社由緒の作成、祭神の確定、式内社の論証など）②祭儀の復興と国学者（神葬祭、奉幣・祈祷の再興など）③神道思想と国学者（幽冥界・他界観念、祭神の神格など）のテーマのうち、一つを選択し、どのようなことを対象として、どのようなことを明らかにしたいかを 1000 字程度で記述しなさい。

## 担当教員紹介

松本久史 教授

## 令和 4 年度の担当科目

神道学演習Ⅰ・Ⅱ、国学概論Ⅰ・Ⅱ

古典講読ⅠA・ⅠB

混沌を増すこの時代、神道を学ぶことの重要性がますます必要になっていることを実感しています。

国学について予備知識がなくても、興味・関心を持っていれば問題ありません。2 年間の間に応用できる力を養いながら、共に考えていきたいと思います。

## 専攻領域

国学史、近世・近代神道史、神道思想史

## 主な著書・論文

- ・『荷田春満の国学と神道史』（弘文堂、平成 17 年）
- ・『神話のおへそ 古語拾遺編』（扶桑社、平成 27 年）
- ・『歴史で読む国学』（ペリカン社 令和 4 年：共編著）



# 神道学演習Ⅰ（共通） 「神道古典にみる思想・信仰」

## 概要

『古事記』『日本書紀』『風土記』等、古代に編纂された諸文献には、日本の国の成り立ちや地方の生活・風土・信仰のあり方を語る多くの神話・古伝承が収載されている。本演習ではこれらの文献や、学術論文等を読むことを通して、神話・古伝承に現われた思想・信仰について理解を深めていきたい。

前期は、『古事記』上巻を主軸として、記紀風土記及びそれらを対象とする注釈・学術論文等を参照しつつ講読・輪読を行う（受講生は事前予習・意見交換等、積極的に演習に参加されたい）。並行して、3年生は中間リポートのテーマを設定して研究を進め、4年生は演習論文の完成を目指す（前期末に中間報告を求める）。後期には、中間リポート／演習論文の内容について受講生各自が口頭発表を行い、その後の添削指導を経てリポート・論文を完成する。

## 1次募集提出課題

現時点で自分が研究課題にしたいと考えていることを 1,000 字以上で説明せよ（関心のある分野・テーマ・問題、研究対象として想定している文献〔單一でなくともよい〕、これから調査・考察したいこと等）。本文とは別に、課題を作成するにあたり参考にした資料・文献を末尾に箇条書き形式で記載すること。

## 担当教員紹介

小濱 歩 準教授

## 令和4年度の担当科目

神道と文化、神道文化基礎演習

國學院の学び

（國學院大學の歴史と未来）

日本文化を知る

（日本文化論と日本神話）

記紀・風土記などの神道古典や日本古代思想に関心があり、関係するテーマでリポート・演習論文を執筆したいと考えている方へ。研究・発表に際しては、「研究対象のテクストと参考文献とをしっかり読み、それらに基づいて考察・議論することを心がけていきましょう。



## 専攻領域

神道古典

## 主な著書・論文

- ・『古事記』大宜津比売伝承の特色—海外神話及び『紀』所伝との対照において—（『神道宗教』第230号、2013）
- ・『古事記』須佐之男命像の特色 一ウケヒ伝承を手がかりとして—（『國學院大學紀要』第48号、2010）
- ・『古事記』神代における大物主神像についての一考察（『國學院大學大学院紀要—文学研究科—』第40輯、2009）
- ・「大物主神の神名と神格の関わりについて」（『神道宗教』第207号、2007）

# 神道史学演習Ⅰ（昼・夜）「古代祭祀の実態をさぐり、災害・環境を考える」

## 概要

日本列島の環境は、恵みが多い一方で自然災害も多発します。その環境で培われた日本人の信仰は、自然環境と密接に結びついているといつてもよいでしょう。そこでは、神に対する信仰だけではなく、死者（祖先）に対する信仰が重要な要素となっていました。

私の演習では、古代祭祀が、どのように行われたのか。その実態を、神と死者（祖先）への信仰と日本列島の自然環境と関連させながら、考古資料だけでなく、文献史料、民俗資料なども含め多面的に考えてみたいと思います。これは、単に歴史の問題ではなく、大規模な風水害が頻繁に発生し、感染症が蔓延している現代を考える上でも大きな意味があると考えます。

3年次の演習は、神と死者、古代祭祀に関する笛生の著作『神と死者の考古学』をテキストとし、分担して講読します。講読では、随時、教員から解説を加えるので、古代祭祀や神社の起源、死者の葬送の歴史を理解し、考古学資料のみでなく、「記紀」や「古風土記」『古語拾遺』『延喜式』など文献史料との関連についても理解を深めてください。なお、國學院大學博物館での物資料の見学も行う予定です。

講読にあたっては、担当部分について、内容を要約したレジュメを作成し、受講者全員で理解を共有します。古代の祭祀や葬送の実態、神観・祖先観などを考古学資料と文献史料を手がかりに探ってみましょう。この演習をとおして、4年次の卒業リポートの具体的なイメージが描けることを願っています。

## 1次募集提出課題

これまで、神道文化学部で学んできたことを振り返り、現在、自らが関心のある分野・内容について述べ、その分野・内容と、この演習のテーマ「古代祭祀の実態をさぐり、災害・環境を考える」との関連についても述べなさい。（1,000字以上）

## 担当教員紹介

笛生 衛 教授

## 令和4年度の担当科目

神道史学演習Ⅰ・Ⅱ、宗教考古学Ⅰ・Ⅱ

## 専攻領域

日本考古学・日本宗教史

## 主な著書・論文

- ・『神仏と村景観の考古学』（弘文堂、2005年）
- ・『日本古代の祭祀考古学』（吉川弘文館、2012年）
- ・『神と死者の考古学—古代のまつりと信仰』（吉川弘文館、2016年）
- ・「古代祭祀の形成と系譜—古墳時代から律令時代の祭具と祭式—」（『古代文化』第65巻第3号、2013年）
- ・「沖ノ島祭祀の実像」『季刊考古学 別冊27・世界のなかの沖ノ島』（雄山閣、2018年）
- ・〔「中臣寿詞」の「天つ水」再考-「水の祭儀」論の再検討〕（『國學院雑誌』第120巻11号、2019年）
- ・「神道（祭祀）考古学」『季刊考古学 第150号 考古学はどこへ行くのか』（雄山閣、2020年）

古代祭祀の実態を、日本列島の環境・災害と関連させながら考え、災害が頻発する現代を歴史的に見直してみましょう。



# 神道史学演習Ⅰ（夜） 「神道・神社を歴史的に考える」

## 概要

令和5年度はテーマをあまり絞らず、神道・神社史に関心のある学生を広く募ります。神道・神社に関するさまざまな事物の多くは、長い歴史を経て現代に至っています。例えば、律令祭祀や神仏習合思想が、現代の祭式や思想に影響を与えていた面は少なくありません。そうした点に関心のある学生の応募を期待しています。

神道史学演習Ⅰ履修者（3年次）は、それぞれが関心を持ったテーマを発表します。その上で、発表での指導・議論を反映した課題レポート（6,000字程度）を作成し、年度末に提出してもらいます。教員は個々の関心にあわせて指導します。

神道史学演習Ⅱ履修者（4年次）は、演習論文（12,000字程度）に関連するテーマで発表を2度します。テーマは3年次の課題レポートと原則です。

演習論文は12月末に1次提出、1月最終授業時に最終提出となります。最終提出時には、1次提出後に教員が指示した修正点等を反映することが必須になります。これは、できるだけ高い水準の論文を完成させるためです。

## 1次募集提出課題

自らが調べたいテーマを、今分かっている事柄を交えつつ1,000字以上でまとめてください。なお、テーマは漠然としたものではなく、「律令祭祀」とか「神仏習合」など、ある程度具体的にしてください。

## 担当教員紹介

加瀬直弥 教授

## 令和4年度の担当科目

神道文化演習・神道史学演習Ⅰ・Ⅱ

祭祀学Ⅰ・Ⅱ・祭祀学特殊講義

## 専攻領域

古代・中世神道史

## 主な著書・論文

- ・『古代の神社と神職』（吉川弘文館、平成30年）
- ・『平安時代の神社と神職』（吉川弘文館、平成27年）
- ・『日本神道史〈増補新版〉』（共著・吉川弘文館、令和3年）
- ・『古代諸国神社神階制の研究』（共著・岩田書院、平成14年）
- ・「着装装束から見る中世神社神事の特色」（『神道宗教』263、令和3年）

人のコミュニケーションは、勢いがあれば大概うまくやれるでしょう。でも、確かな根拠の伴う言説を求められる場合も少なくありません。  
地味で指導のくどい演習ですが、「根拠の大事さの分かる学生」はきちんと育成したいと思っています。



# 神道史学演習Ⅰ（共通） 「祭祀・神社・神話・信仰などを考える」

## 概要

「神社と祭祀は、何故、古代から現代まで続いてきたのだろう？」

伝統宗教と呼ばれる宗教を考えるにおいては、このような問い合わせに答えることが、その宗教の本質に迫ることではないかと考えています。

本演習のテーマは「神道」ですので、皆さんの発表から、神社や祭祀が古代から現代まで続いてきた理由を考えたいと思います。

本演習では、自分の関心のあるテーマ（祭祀・神社・神話・信仰そのほか自由に選択）について調べ、レジュメを作成して報告して下さい。調べるに当たっては、その根拠を示すことが大切ですので、資料を添付したレジュメを作成するようにして下さい。作成にはある程度の時間がかかりますので、早めに準備することをおすすめします。

また、希望者がいれば、夏期休暇中に、神宮に参拝に行く年もあります。神社や祭祀は、実際に行ってみると、新たな気付きが得られますので、積極的に出かけてみましょう。

## 1次募集提出課題

本演習で調べてみたいと思うテーマについて、1000字以上で記述しなさい。なお、調べる際に用いた典拠（資料・史料・参考文献など）を必ず記すこと。（3年次にテーマを変えることはできますので、あくまでも現段階で興味があるテーマで大丈夫です）

## 担当教員紹介

小林宣彦 准教授

テーマに関する事項について、皆で考えていきましょう。また、発表に関する質問や相談にはできるだけ応じたいと思いますので、より良い発表につなげていきましょう。

## 令和4年度の担当科目

神道史学演習Ⅰ・Ⅱ

神道史学ⅠA・ⅠB、古典講読ⅡA・ⅡB

神社祭祀演習ⅢA、神道文化演習



## 専攻領域

神道史、神社史、有職故実

## 最近の主な著書・論文

- ・『律令国家の祭祀と災異』（吉川弘文館 平成31年2月）
- ・「天石窟伝承と古代の祭祀構造に関する考察」（『國學院雑誌』121-11、令和2年11月）
- ・「『日本書紀』成立概史」（『神道宗教』259・260、令和2年10月）
- ・『日本神道史（増補新版）』（吉川弘文館、令和3年5月）（共編）
- ・事典『古代の祭祀と年中行事』（吉川弘文館、平成31年1月）（共著）

# 神道史学演習Ⅰ（共通） 「神社の四季の祭りを学ぶ」

## 概要

古くより神社では、四季を通して様々な祭りが行われてきました。これらの祭りは、各神社それぞれの形を受け継いでおり、中には千年以上続くものもあります。こうした歴史ある祭りが今に伝わっているのは、神に奉仕し、形作られた祭りの次第形式を厳然と踏襲してきた神職をはじめとする祭りの担い手達の存在が大きく、彼らにより神社の伝統が守られ継承されてきました。これら神社の祭りに関しては、文献史料を基に、祭りの内容を調べていくことで、当時の人々がどのような事を神に願い、そして、どのようなことが祭りの重要な要素なのかといった特徴を明らかにすることが出来ます。

この演習では、受講生自身が関心を持つ神社の祭りの内容を時代の変遷を考慮しながら、文献史料や現地での祭礼調査などを手がかりに研究をしてもらいます。自身で選んだ祭りについて調べることで、その祭りで何が重要な要素となっているのかを明かにすることを目的にそれぞれレジュメにまとめて発表を行います。

## 1次募集提出課題

関心のある神社の祭り（祭祀）の内容を具体的に説明し、その祭りのどのような事に興味があるのかを述べて下さい。また、4年次にどのようなテーマで演習論文を作成していきたいのかを説明して下さい。提出の際、必ず、課題の文末に自身が読んで参考にした文献資料を3点以上記してください。（1200字程度）

## 担当教員紹介

鈴木聰子 助教

四季折々の祭りの内容を丹念に調べていくことで、当時の人々の信仰心や、祭りの重要な要素を探ってみましょう。そして、祭りの本質を考えていきましょう。

積極的に学び参加することを期待しています。

## 令和4年度の担当科目

神道史学演習Ⅰ・Ⅱ

神道文化基礎演習・神道文化演習

神社祭式概論Ⅰ・Ⅱ、

神社祭祀演習Ⅰ、神社祭祀演習ⅢA、



## 専攻領域

古代・中世神道史、祭祀学

## 主な著書・論文

- ・「神社年中行事の形成背景—節日神事を中心に—」（『國學院雑誌』第122巻第10号、令和3年）
- ・「神社年中行事の形成と意義—賀茂別雷神社と春日社を事例に—」（『神道宗教』263号、令和3年）
- ・『事典 古代の祭祀と年中行事』（共著・吉川弘文館、平成31年）
- ・「国家節会から神社年中行事へ-五月五日行事を事例として-」（『神道宗教』、平成29年）
- ・『房総の伊勢信仰』（共著・雄山閣、平成25年）

# 宗教学演習Ⅰ（共通） 「宗教を通して社会・文化を考える」

## 概要

演習は参加する学生さんの発表が中心になります。はじめに、発表内容の選び方、レジュメの作成の仕方、発表の仕方(映像の利用など)についてガイダンスを行います。3年生は30分間、4年生は50分間の発表を目指します。発表者は発表を行いますが、発表を聴く側は評価シートに発表者の評価をつけます。評価シートは、翌週に全員分を集計し配付の上、私がコメントを加えます。発表のテーマは、相談の上決定しますが、多様なテーマで発表されています。

宗教、とくに現代社会におけるさまざまな宗教現象を通じて、私たちの文化や社会を理解したいと思います。

これまで扱ってきた発表テーマの一部を列挙すると、次のようにになります。クトゥルプ神話、ディズニーランドの宗教性、宗教とテロ、廓と宗教、インターネットと宗教、妖精信仰、ヒーローの宗教性、プリキュアに見る宗教性、アニメ・マンガの宗教性、神社の高層化、などいろいろです。

## 1次募集提出課題

上記の概要に合致すると思われるテーマをひとつ選び、そのテーマを選んだ理由、現在考えている研究の進め方、すでに読んだ（読もうとしている）参考文献を記しなさい。（1,000字程度）

## 担当教員紹介

石井研士 教授

## 令和4年度の担当科目

宗教学演習Ⅰ・Ⅱ  
宗教学、儀礼文化研究

私たちを取り巻く文化、社会的状況を宗教現象を通して理解したいと思います。自分でテーマを設定し、アプローチを構築しながら、新たな関心領域を開いていきましょう。

## 専攻領域

現代社会と神社神道、情報化と宗教  
日本人の宗教意識と宗教行動、現代日本人の年中行事・通過儀礼

## 主な著書・論文

- ・『銀座の神々—都市に溶け込む宗教』（新曜社、平成6年）
- ・『戦後の社会変動と神社神道』（大明堂、平成10年）
- ・『結婚式—幸せを創る儀式』（日本放送出版協会、平成17年）
- ・『増補改訂版 データベース現代日本人の宗教』（新曜社、平成19年）
- ・『テレビと宗教 オウム以後を問い合わせ直す』（中央公論新社、平成20年）
- ・『バラエティ化する宗教』（編著：青弓社、平成22年）
- ・『神道はどこへいくか』（編著：ペリカン社、平成22年）
- ・『渋谷学』（弘文堂、平成29年）
- ・『改訂新版 日本人の一年と一生』（春秋社、令和2年）
- ・『魔法少女はなぜ変身するのか』（春秋社、令和4年）



# 宗教学演習Ⅰ（共通） 「現代社会における宗教文化の諸相」

## 概要

少子高齢化、過疎化、単身世帯化が進み、さまざまな格差が広がり、多文化の共生を模索し、また大規模災害や疫病に直面する現代社会において、宗教文化はどのような位置にあるものと理解できるだろうか。そのことを考えるのがこの演習のテーマである。

前半は、問題意識の共有のためディスカッションと文献講読、調査法の学修を行う。後半は各自のテーマを持ち寄って発表を行う。

受講生は、宗教学、宗教社会学の基礎的な知識を身につけるとともに、現代社会の諸課題に关心を寄せ、関連文献を探査し、インタビューやフィールドワークなどの調査能力を磨き、発表、討議、論文執筆といったコミュニケーション・発信能力を養う。

## 1次募集提出課題

以下の方法で、現代社会における宗教文化について自分が関心をもつ内容の学術論文を探して読み、内容の要約と感想、意見を1,000～1,200字程度で記す。

- ・CiNii (<https://ci.nii.ac.jp/>) で任意のキーワードで検索し、オンラインで読める論文を探す。
- ・国際宗教研究所『現代宗教』(<http://www.iisr.jp/journal/>) の「論文」から選ぶ。
- ・『宗教と社会』(<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/religionandsociety/list/-char/ja>) の「論文」から選ぶ。
- ・『宗教と社会貢献』(<https://bit.ly/3CT3mPb>) の「論文」から選ぶ。

## 担当教員紹介

黒崎浩行 教授

## 令和4年度の担当科目

宗教学演習Ⅰ・Ⅱ

神社ネットワーク論Ⅰ・Ⅱ

神道と情報化社会Ⅰ・Ⅱ、神道教化システム論

宗教学やその隣接科学がたくわえてきた理論や方法は、現代の私たちの社会・文化を読み解くヒントになるものを多く含んでいる。それを一つでもいいから見つけて自分のものにしてほしい。

## 専攻領域

宗教と情報・メディア、現代の神社と地域コミュニティ



## 主な著書・論文

- ・「渋谷の防災・減災と宗教文化」(『渋谷学叢書5 渋谷 にぎわい空間を科学する』雄山閣、2017年)
- ・「地域社会と神社・祭り—人口減少と地域再生の中で」  
(堀江宗正編『いま宗教に向きあう 1 現代日本の宗教事情 国内編Ⅰ』岩波書店、2018年)
- ・『神道文化の現代的役割—地域再生・メディア・災害復興』(弘文堂、2019年)
- ・「災害後の集落再編過程に見られる祭礼文化の包摂性」(『國學院大學紀要』第59巻、2021年2月)

# 宗教学演習Ⅰ（共通） 「日常と非日常を媒介するものを考える」

## 概要

多くの宗教現象では、神と人、あの世とこの世など、聖なるものと俗なるものを媒介する存在が観察される。この演習では、これらを糸口としてさまざまな宗教や信仰への理解を深める。人としては、神職、僧侶、預言者、御師、靈能者など、さまざまな宗教者がこれにあたるだろう。モノとしては、多くの宗教伝統における聖典などの文章、神宝や聖遺物なども考えられる。研究の視点は、宗教学、社会史、宗教社会学、文化人類学などの宗教関係諸学から学ぶ。この演習の到達目標は、自分のおおまかな問題関心の中から特定の研究テーマを切り出せるようになること、自分の設定したテーマに必要とされるデータの適切な収集と分析の方法-歴史的な資料、フィールドワーク、アンケート・統計資料など…を理解すること、先行の研究結果のふまえ方を理解すること、論理的で読みやすい文章を書けるようになることである。

## 1次募集提出課題

現段階で、自分が関心をもっている宗教・信仰関係の新書を1冊選び、その新書が論じていることの要点と、自分がこの本のいかなる点に魅力を感じたのか、という2点について、あわせて1000字以上1200字以内で説明して下さい。

## 担当教員紹介

遠藤 潤 教授

## 令和4年度の担当科目

宗教学演習Ⅰ・Ⅱ

宗教学Ⅰ・Ⅱ

神道思想史学Ⅰ・Ⅱ、神道文化演習

実りある研究を進めていくためには、根拠の確かなものを探すことが大切です。授業では、そのヒントを提供します。みなさんの興味によって必要なデータの形態はさまざまですが、演習を通じて、確かなデータを調査する能力をつけてましょう。

## 専攻領域

宗教学、日本宗教史（主に近世・近代）

## 主な著書・論文

- ・『平田国学と近世社会』（ペリカン社、2008年）
- ・「平田国学と幽冥思想」『日本人と宗教3 生と死』（春秋社、2015年）
- ・「平田篤胤『仙境異聞』の編成過程」（『國學院雑誌』120-7、2019年）
- ・「近代神道研究をめぐる諸相—柳田国男「神道私見」を視点として」  
『日本宗教史』6（吉川弘文館、2020年）
- ・「平田篤胤の言説は社会的境界を越えたのか—藩・幕府・朝廷を焦点に」  
『越境する宗教史』上（リトン、2020年）



# 宗教学演習Ⅰ（共通） 「神社信仰に関する宗教学的考察」

## 概要

宗教学では「宗教・信仰を理解する」姿勢が必要となる。本演習は、この「宗教・信仰を理解する」姿勢をもって、人々の神社に対する信仰の具体的なあり方に焦点を当てて、その歴史や展開に関する調査研究を行い、神社を信仰の面からあらためて理解していくことを目的とする。

神社存立の基盤は人々の信仰にある。ただし、神社信仰のかたちは、祭神や由緒、鎮座地などによって、それぞれの神社で異なるだけでなく、同じ神社であっても、その信仰の形態が歴史的に変化しているところもある。

本演習では、神社への様々な信仰のかたち・あらわれと、その展開について各自が調査研究することにより、神社信仰への理解を深めていく。

## 1次募集提出課題

これから調査・研究していくと考える神社について、祭神をはじめ祭祀や由緒・歴史、その神社にまつわる信仰について調べてまとめるとともに、自分の意見を述べなさい。

なお、調べる際に参考にした資料や文献、ウェブページをきちんと記すこと。（1,600字程度）

## 担当教員紹介

齊藤智朗 教授

## 令和4年度の担当科目

宗教学演習Ⅰ・Ⅱ

神道概論Ⅰ・Ⅱ、国学概論Ⅰ・Ⅱ

神社信仰への理解は、神社を宗教学的にまなぶ上での基本となります。

本演習では、受講生それぞれが調査研究した神社信仰について発表を行い、その時の議論を通じて、さらに調査研究を深めていく形式で進めていきます。

積極的な参加を期待しています。

## 専攻領域

宗教学、近代神道史、近代日本宗教史

## 主な著書・論文

- ・『井上毅と宗教 一明治国家形成と世俗主義一』（弘文堂、平成18年）
- ・『生田神社史』（共著：生田神社編、国書刊行会、平成19年）
- ・『大社町史 中巻』（共著：大社町史編集委員会編、出雲市、平成20年）
- ・『事典 神社の歴史と祭り』（共著：岡田莊司・笛生衛編、吉川弘文館、平成25年）
- ・『事典 古代の祭祀と年中行事』（共著：岡田莊司編、吉川弘文館、平成31年）
- ・『日本神道史 〈増補新版〉』（共著：岡田莊司・小林宣彦編、吉川弘文館、令和3年）



# 宗教学演習Ⅰ（昼・夜） 「世界と日本の神話と神々」

## 概要

神話は、さまざまな「はじまり」を語ります。世界はどのようにできたのか。どのようにして人間がこの世に現れたのかは共通のテーマです。同じように重要なのが英雄神話です。神や半神半人たちの冒険や怪物退治も世界各地で語られています。このような神話は人類の歴史とともに存在したと考えられます。現代社会においても神話をモチーフにした新たな作品が生まれ、人々に受け入れられています。

神話を研究する視点は、他地域間の神話との比較や昔話、儀礼との関係の考察、心理学的な立場からの分析、絵画や音楽、ポップカルチャーといった文化への影響、などなど多様なものがあります。本演習では、自分が関心を持って追究したいと思う神話や神について、その分析視点についても検討をしながら調査、研究します。自分が「これは神話的だ！」と思うものであれば、現代の作品を対象にしてもかまいません。一神教の神や天使、悪魔、妖怪、妖精なども対象です。また、受講者は下記の条件を満たすものとします。①他の参加者の研究テーマにも関心を持ち、挙手をして自分の意見を述べ、ディスカッションに参加することができる。②宗教文化士資格の取得に積極的である。③日本以外の宗教文化に関心を持ち、調べることができる。④日本を研究対象にする場合も広い視野からの分析を心がける。

## 1次募集提出課題

本演習で調べたいと思うことについて、研究視点、研究方法を明確にしながら 1000 字以上で記述しなさい。参考文献も明記すること。上記に記した受講条件の内容を踏まえ、ゼミに参加したい熱意が伝わるように書いてください。

### 担当教員紹介

平藤喜久子 教授

神話は、神々の不思議な話が盛りだくさんです。その不思議の背景、謎と一緒に解き明かしていきましょう。

テーマ探しに迷ったら『世界の神様解剖図鑑』が参考になります。

### 令和4年度の担当科目

宗教学演習Ⅰ・Ⅱ

神道文化基礎演習、神道文化演習

比較文化学Ⅰ・Ⅱ、神道と文化、國學院の学び（現代日本社会の神道）



### 専攻領域

神話学、宗教学

### 最近の主な著書・論文

『神話の歩き方』（集英社、2022年）

『現代社会を宗教文化で読み解く—比較と歴史からの接近』（編著、ミネルヴァ書房、2022年）

『神話でたどる日本の神々』（ちくまプリマ一新書、2021年）

『ファシズムと聖なるもの/古代的なるもの』（編著、北海道大学出版会、2020年）

『世界の神様 解剖図鑑』（エクスナレッジ、2020年）

『いきもので読む、日本の神話』（東洋館出版、2019年）

『神のかたち図鑑』（共著、白水社、2016年）

# 宗教学演習 I (共通) 「宗教とグローバル化」

## 概要

グローバル化 (globalization) は、近年しばしば耳にする言葉です。グローバル化の始まりや定義をめぐっては、さまざまな議論がありますが、グローバル化の結果、国々の間の交流が増えました。また、経済的なネットワークが構築され、多様な文化が流れ、多様な社会がより緊密な関係を持ち、より複雑に交錯するようになりました。これは宗教にも深い影響を与えました。布教活動や移民によって、さまざまな宗教がかつて存在しなかった場所へも普及し、異なる宗教や文化の間の接触が、各地において新しい宗教現象を多数生み出しているのです。本演習では、グローバル化の歴史を検討して、具体的な事例を紹介しながら、グローバル化が宗教領域に対して及ぼす影響のさまざまな形態とその経済的・政治的・文化的背景を検討します。本演習では、学生が調査テーマを選び、自主的にそれについて調べ、その結果を毎学期に一回、授業で発表し報告してください。他の参加者との議論もおこないます。

## 1次募集提出課題

宗教とグローバル化というテーマで、あなたが具体的に関心を持っていることを、1,000字以上でまとめてください。

## 担当教員紹介

シッケタンツ・エリック 准教授

## 令和4年度の担当科目

宗教学演習 I・II、  
世界宗教文化論 I・II、  
仏教文化研究 I・II、東アジア文化研究 I・II  
英語III、Japan studies

世界は広くて面白い。世界各地の宗教問題について知識を身につけることで視野も広がります。自分がことん追求したくなる課題を見つけて、それを深く調べて考察することは大学生活だけでなく、社会生活でも役立つ経験になります。



## 専攻領域

宗教学、近代日本宗教史、近代中国宗教史

## 主な著書・論文

- ・『墮落と復興の近代中国仏教：日本仏教との邂逅とその歴史像の構築』（京都：法蔵館、2016）
- ・“Narratives of Buddhist Decline and the Concept of the Buddhist Sect (zong) in Modern Chinese Buddhist Thought,” in *Studies in Chinese Religion* 3:3, pp. 281-300, 2017
- ・「近代中国仏教における宗派概念とそのポリティクス」、末木文美士・林淳・吉永伸一・大谷栄一（編）『ブッダの変貌-交錯する近代仏教』、87-108 頁（京都：法蔵館、2014 年）
- ・“Wang Hongyuan and the Import of Japanese Esoteric Buddhism to China during the Republican Period,” in Tansen Sen (ed.) *Networks of Material, Intellectual and Cultural Exchange* vol. 1, Singapore: Institute of Southeast Asian Studies, 2014, pp. 403-427.
- ・「現代中国における清明節の復活-共産党政権の文化政策における祖先崇拜の位置づけについての考察」『死生学研究』13 号、183-216 頁、2013 年

# 宗教学演習Ⅰ（共通） 「近現代社会のなかの神靈」

## 概要

この演習では、「近現代社会のなかの神靈」という視点から、宗教文化とそれを取り巻く社会や人間のあり方について考えてていきます。ここで言う「神靈」には、〈神〉のほかにも、〈死者〉の靈魂、〈妖怪〉、〈怪異〉のようなものも含まれます。こうした存在に対するリアリティは、近代化の進展に伴い衰退していくようにも思われますが、私たちの身の回りには今でも多くの神靈の文化が息づいています。一口に「近代・現代社会」とは言いますが、そのあり方は非常に複雑で、様々な特徴をもっています。情報化・過疎化・国際化・観光化…など、多様な社会の局面のなかで変化する神靈の姿は、反転して、それを担う人間の姿を映し出すことでしょう。

授業では、宗教学の研究に必要な基礎知識について、文献の輪読を通じて学んでいきます。また、各自で具体的な研究テーマを選び、発表を行うことで、論理的な思考法、調査法、議論の仕方などのアカデミックスキルを身につけます。議論への積極的な参加を求めます。

## 1次募集提出課題

「近現代社会のなかの神靈」というテーマあなたが研究したいと考えている事象について、①事象の概要、②事象のどんなところに関心を抱いているのか、③研究するうえで参考になる学術書や論文、を記してください。（1000字以上）

## 担当教員紹介

大道 晴香 助教

## 令和4年度の担当科目

宗教学演習Ⅰ・Ⅱ

神道文化基礎演習、神道文化演習

宗教社会学Ⅰ・Ⅱ、現代日本と「宗教」、  
神道と文化

自分のなかにある関心の種を、自分にとっても、社会にとっても意義のある研究へと育てていきましょう。

せっかくやるなら自分の好きな題材を選んで、とことん追究！みんなの「やりたい」を全力で応援します。



## 専攻領域

宗教学、宗教民俗学、メディア論、観光学、地域文化

## 著書・論文

- ・「一九八〇年代の「こっくりさん」—降靈の恐怖を払拭する「キューピッドさん」の戦略」（一柳廣孝・大道晴香編『怪異と遊ぶ』青弓社、2022年）
- ・「メディアのまなざしを拒む場所 - 視覚情報の欠如から「聖地」と「カメラ」の関係を考える」（藤野陽平・奈良雅史・近藤祉秋編『モノとメディアの人類学』ナカニシヤ出版、2021年）
- ・「パワースポットのメンタリティ - 欲望と禁欲のはざまで」（山中弘編『現代宗教とスピリチュアル・マーケット』（弘文堂、2020年）
- ・『「イタコ」の誕生—マスメディアと宗教文化』（弘文堂、2017年）

# 宗教学演習Ⅰ（共通） 「民俗神道の研究方法を考える」

## 概要

本演習では、人びとの日々の暮らしのなかで育まれ伝えられてきた習俗慣行を通して、地域文化の研究方法について考える。わが国の神祇信仰は時の政権や外来知識の影響を受けつつも、その本質を民衆の日常生活のなかに求めたのが柳田國男であった。前半は彼の著作を輪読し、郷土研究における民俗学的分析法の基本を学ぶ。後半は、自治体発行の市町村史などを読み込み、年中行事や冠婚葬祭といった習俗慣行、地域社会における氏神社の性格や役割について分析するとともに、各自が関心をもった地域について調査する。発表の場ではお互いの発表内容を参照しながら議論し、郷土研究の方法論への理解を深めていく。必要に応じてフィールドワークの初步的な指導も行うことがある。発表にあたっては資料収集、資料分析、論理展開の3点を意識しながら行い、論文作成に繋げていく。

## 1次募集提出課題

あなたが今後も大学で学び続ける理由および本演習を選択する理由について、これまでの学修内容と関連づけながら説明してください。（1200字以上）

## 担当教員紹介

柏木亨介 助教

## 令和4年度の担当科目

宗教学演習Ⅰ・Ⅱ、  
神道文化基礎演習、神道文化演習  
日本宗教文化論Ⅰ・Ⅱ、日本文化を知る  
神道と文化

まずは先行研究をしっかり読み込んで先人の考え方を知りましょう。  
そして、故郷の歴史や文化をいま一度振り返り、本演習での議論を通して日本文化の多様性や奥深さに気づきましょう。



## 専攻領域

民俗学、文化人類学、村落祭祀と社会規範、  
日本・台湾・韓国の比較民俗研究

## 主な著書・論文

- ・「真宗門徒の死者供養にみる民俗的心意—愛媛県今治市大三島町野々江のイハイを背負う盆踊りー」（『國學院雑誌』123巻9号、令和4年）
- ・「災害復興と地域振興のなかの神社—阿蘇の自然災害を事例にー」（『神道宗教』264・265号、令和4年）
- ・「戦後社会における旧華族神職家の継承—阿蘇神社宮司三代の事例ー」（『日本民俗学』307、令和3年）
- ・「疫病習俗からみる日本人の病因観と差別の論理—祟りと業ー」（『神道宗教』258、令和2年）
- ・「明治初期におけるムラ氏神の成立過程—熊本県阿蘇郡の神社整理ー」（『神社合祀再考』岩田書院、令和2年）